

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	道作古墳群歴史広場維持管理事業
事業の実施者	実施団体名 特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会
	所管部署 生涯学習課

2. 事業のプロセス評価

(提案書提出前)	設問	小林住みよいまちづくり会				印西市			
	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
(提案書提出前)	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q2	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。								
(アイデア審査後、最終審査前)	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。	・市民の皆様「に「ロマンを感じて貰う」ため、「遺跡古墳の歴史的ロマン」を強調する。 ・広報を充実する具体的なアクションの検討。							

	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった	1. 行った 2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった	1. 残した 2. 残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	・道作古墳を訪れる人が増えてるかどうか、度々現地に足を運び、訪問者に会えば声掛けをし、道作古墳の印象を聴く機会を持った。やはり、「綺麗」になったことは必ず言ってくれるし、「案内板」を結構念入りに目を通してきているなど感じた。	・定期的な維持管理事業を実施した上、古墳の非破壊調査やイベントなどの事業に合わせて柔軟な対応をしていただくことにより、より効果的な活用が可能となった。
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	・広報の充実が重要という共通認識のもとに幾つかの手段で情報発信を行っている。 ①機関誌(瓦版)の発行と、道作古墳関連記事の掲載(各号) 23号は1,000部(町内会、学校、各団体等)、②HPへの掲載(ブログによる関連記事の更新) 月平均1,000アクセスを目標にしている。 ③道作古墳見学会開催にあたってのポスター(チラシ)の作成、配布(町内会、学校、各団体等)500部、 ④千葉ニュータウン新聞への関連記事の掲載(42,000部) H29.3.11発行(結構な反響があったと実感)、⑤各校長(小林中、小林小、小林北小)に道作古墳広場に於ける生徒への歴史年表、古地図の説明提案、⑥ロータリークラブでの地元歴史(瓦版等)の配布)の説明	・まちづくり会のHPや機関誌など、積極的に情報を発信していただいた。市は広報やHPなどを実施したが、周知の拡大に向け、さらに検討する必要がある。

協働事業実施後	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
	適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	・「道作古墳群見学会」を2回開催したが、アンケートの結果を見ると、春の見学会では、①古墳が整備され綺麗な公園になり驚いた②出土した土器等が縄文時代ということへの驚き③身近なところに古墳が見れたこと④野点を定期的にやってほしい。など 秋の見学会では、当会主催の小林ウォーキングの休憩場所に充て見学会の場とし、土器等の展示説明をしたが、やはりアンケートでは、①初めて展示物を見て、印西はすごい②綺麗に整備された③資料等は学校の授業でも活用したいなど、市及び当会ともそれぞれの担務を評価して貰った印象がある。ただ、個々には展示物をもっと増やして欲しいとか、PR不足とか両者とも課題を持たされてはいる。	・維持管理事業に加え、見学会の開催など精力的に実施した。市も、出土土器の解説や展示など、可能な限りの支援を行った。
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
	適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	・当会としての資金負担としては、道作古墳群見学会（文化財普及イベント開催）分であり会場設営における、テント、パラソル、テーブル、椅子等の機材、珈琲、烏龍茶の無料サービス等とそれに伴う人件費であり、概ね計画どおりの予算により達成できた。（春の見学会における「野点」は実費相当の300円での提供をした）	・概ね計画通りに執行され、適切であったと考える。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○				○		
		実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。				・草の生育状況や廃棄重量など、天候などの自然条件によって変動があるため、若干の修正を必要としたが、概ね計画通り実施することができた。			
		・事業としては、アンケートによる「市民の声」にも反映されているように相当評価されたと思っている。 ①墳墓及び広場の草刈整備による景観向上②樹木管理整備③見学会の高評価など事業の達成は図られたと認識している。							

	設問	小林住みよいまちづくり会				印西市			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○					○		
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・目標は達成できたと考えている。ただ、事業の主たる対象が「自然等」であり、想定外の変化がありその都度変更を実施し、絶えず綺麗な整備状態にしてきたため工程の見直しが生じた。具体的には①墳墓の雑草等が予想以上に生育が早く、それに対応した。②8月に大型台風があり、直後の緊急整備を実施した。③9月に東工大の土中レーダ探索調査が計画されたため、緊急に調査対象の墳墓を直前に整備した。いずれも当会の自主的ボランティア活動の一環として追加した。				・主目的である歴史広場の維持管理について、達成されていると考える。			
	Q18 経費の支出は適切でしたか。		○				○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。	・前Q17の工程については、あくまでも従来から実施している当会のボランティア活動の一環として自主的に臨機応変に対応したものであるが、結果的には草刈回数の増につながり、「提案者負担」の経費支出となったため、その点では若干の反省はある。				・追加の草刈等、団体の負担が増大した点もあるが、概ね適切であったと考える。			
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○				○			
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	・「見学会」という文化財普及イベントは、アンケート結果からも明確なように、土器等の出土品の現物をまじかで見ることができ、また市からの説明、質疑応答は参加者から高く評価されていることであり、この分野は当会が単独では実施することはできないものであり、かつ見学会には必要不可欠な工程であると考えている。				・単独で事業を実施した場合と比較し、予算的にも大きな負担軽減となるだけでなく、市民団体の自主的な活動により、地域の文化財としてのランドマーク的な役割も果たすことができ、活用の面に関しても効果があったと考えられる。				

協働事業実施後	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
	事業の実施により、事業計画で示したQ20の地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない	1. 思う 2. 思わない
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。	・印西市全域はもとより、地元(馬場エリア)の人達でも近隣の「歴史」に対してあまり知られてないことがアンケートや平素の直接の会話等から明らかになっている。また道作古墳一体が以前と比べ格段と綺麗になったことに驚きに近い評価を得ている。しかし、一方では設備的な点で、毎回のアンケートで、①常設のトイレ設置②より多くのイベント③より多くの人に来て貰いたい④より多くの展示物など市民の皆様の要望も多く課題が残っている。	・道作古墳群歴史広場において、市民が安全に憩える場所にするという課題にたいし、多大な成果をあげていると考える。課題として、更に多くの人が広場を利用できるよう、周辺の文化財や観光資源との総合的な活用を計画していく必要がある。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。		・一帯が明るい雰囲気、環境になったこともあり、「名所巡り」「ウォーキング」「自転車」などで訪れる人が非常に多くなってきている。薄暗くなっても人の往来も見受けられるほどになってきている。整備された道路のせいもあるかとは思いますが、以前とは随分改善されている。しかし、まだまだ「歴史公園」的なものにするには数多くのアクションが必要と考えている。前Q20の要望はもちろんのこと、「古墳公園」として①どこからでも写真の被写体になり得る景観づくり②小中学校生徒の学習の場③土器、埴輪など生徒の手製で、人工的ではあるが古墳の周辺に並べるなど古墳のアピール④周囲の土手に四季おりおりの花が咲く木の植栽⑤2号、6号古墳など近接する古墳との一体公園化⑥「自然」のままにするか、「多少手を加え古墳らしさを強調し、美しい公園」にするかなど、今後の検討課題と考えている。	・本協働事業により、道作古墳群歴史広場については、市民に対し非常に良好な環境が提供できる状況となっている。今後は、見学者の増加と積極的な利用を目指し、周辺の資源と連動した史跡の活用を検討していく必要があると考える。

市民活動推進課まとめ

当提案は、道作古墳群歴史広場を市が整備したことをきっかけに、小林地区の活性化をミッションに活動するNPO法人小林住みよいまちづくり会が維持管理及び活用を図る協働事業として採択されました。平成28年度は昨年度に引き続き2年目の企画実施となりました。

維持管理事業は年間を通して順調に行われたようです。また、文化財普及イベントとして行われている古墳見学会では、市職員が出土資料の展示解説を行うなど、それぞれの特性に応じて適切な役割分担が行われ、高い協働の効果を生み出したものと思われます。一方、当初の計画にないにもかかわらず、市が古墳の学術調査に先立ち団体の負担で草刈りを依頼した件については、団体の下請け化につながらないよう、双方が密にコミュニケーションをとることが求められます。

提案者は今後も維持管理を継続し、イベントの実施についても積極的に行っていく意向で、担当課としても提案者に管理を継続してほしいと考えております。

したがって、企画提案型協働事業からの新たな事業展開についても、課題はあると思いますが、今後積極的に検討していく必要があります。